

先日、テレビで、若者の間で“けん玉”がブームになっているという特集をやっていました。「いまどきの若者がけん玉？」と半信半疑だったのですが、見て納得。日本のけん玉を持ち帰った海外の若者が、そのけん玉を使って、ダンスミュージックに合わせて様々な技を披露し、それをYOUTUBEなどの動画サイトに「KENDAMA」として投稿していたのです。それは、もはや、子どもの遊びというより、若者のストリートパフォーマンスとして、おしゃれでかっこいいものに生まれ変わっていたのです。その動画サイトをみた日本の若者がファッション感覚で、再びけん玉にハマりはじめたという、いわばけん玉が逆輸入されたような感じなのです。

そういえば、うちの園にも、けん玉は出してはいるけど、あんまり使われてないなあと思い、朝の時間に私もちょっと練習を始めてみました。はじめは、見ているだけだった子どもたちも、少しずつ、やってみようという気になり、やり方を聞きに来るようになりました。基本の大皿から、練習を進めると、あっというまに数人の子が大皿に乗せることができるようになりました。できるようになると、面白さは倍増、より難しい場所に乗せる練習を始めます。それも、自分から。

練習して、練習して、ときどき“まぐれ”で出来て、「やった！」と喜びも束の間、またできなくなり…、それでも練習していると、だんだんできる回数が増えてきます。一つの技ができるようになって、ほとんどの子がそれで満足せずに、さらに難しい段階へ挑戦しようとしています。“こま”でもそうですが、やればやるだけ上手になるし、終わりが無い。けん玉の基本技は10ぐらいですが、それらを応用した技は3万を超えるといわれています。さらに、自分で工夫し、技を開発することもできます。

昔ながらのおもちゃってすごいなあと改めて感心します。ゲームなどのように、クリアしたらおしまい、また新しいソフト買い足して…ではなく、まあ、最初にけん玉を手に入れなくてはなりません、ゲームに比べたら安いものです。手に入れてしまえば、どれだけでも遊べるのです。電池もいらない。集中力は増し、体の使い方が器用になり、知恵や工夫が生まれ、…などなど、良いことづくめです。

子どもの世界でもブームみたいなものがあって、周りのみんながやらなくなると、だんだんやる気がなくなっていくものかもしれませんが、保育園では、これからしばらく、けん玉やコマをますます盛り上げていこうと思っています。ぜひ、お父さんや、お母さん、おじいちゃんやおばあちゃんも昔取った杵柄で、昔の遊びを子どもたちに教えてあげてください。お手玉やおはじきなんか、とてもいいと思います。

何かの機会に、そうした伝承遊び大会が開催できればいいなあとも思っています。

